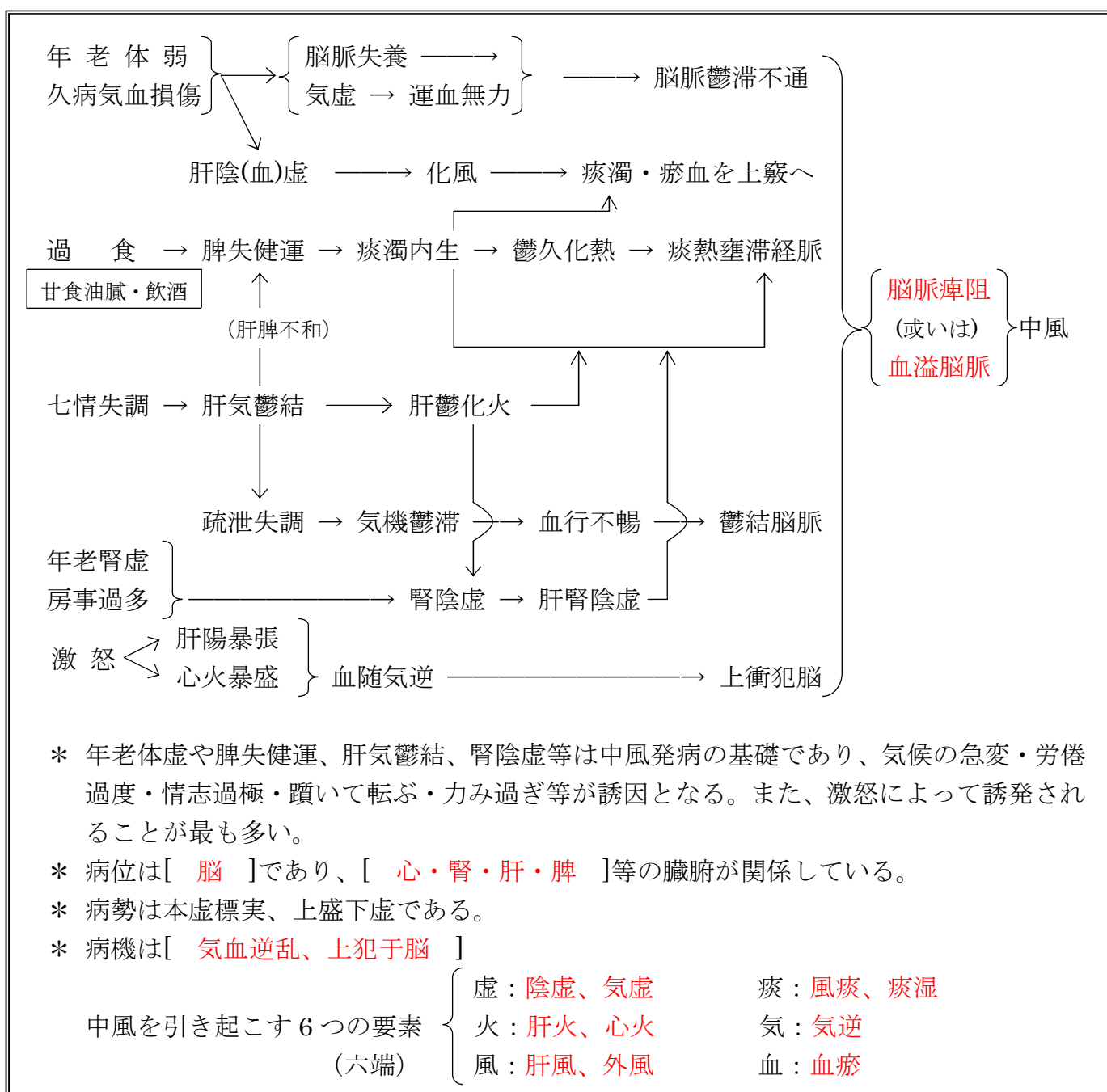


## 第 29 講 『 中 風 』

：中風患者は中年以上に多く、発病が急であり症状が多様で変化が速いため風の遊走性の特徴に似ており、又、矢に射られたり暴風のように急速であることから“中風”又は“卒中”と呼ばれる。

本病は頭暈、四肢の麻痺感、疲れてだるい、焦ってしまい落ち着かない等の前兆症状が見られることが多く、発病時には半身不随、舌強、言語障害、甚だしいものは突然倒れ人事不省等が主症状となる。

### 【 病因病機 】



\* 年老体虚や脾失健運、肝気鬱結、腎陰虚等は中風発病の基礎であり、気候の急変・労倦過度・情志過極・躓いて転ぶ・力み過ぎ等が誘因となる。また、激怒によって誘発されることが最も多い。

\* 病位は[ 脳 ]であり、[ 心・腎・肝・脾 ]等の臓腑が関係している。

\* 病勢は本虚標実、上盛下虚である。

\* 病機は[ 気血逆乱、上犯于脳 ]

中風を引き起こす6つの要素 (六端)	}	虚：陰虚、気虚	痰：風痰、痰湿
		火：肝火、心火	気：気逆
		風：肝風、外風	血：血瘀

## 【 診 断 】

- ① 主症状：半身不随、口舌歪斜、言語障害、ボーッとしている等
- ② 発 病：急性発病
- ③ 誘 因：気候、情志、過労、転倒、力み
- ④ 前 兆：頭暈、頭痛、四肢の痺れ、力が入らない等
- ⑤ 好発年齢：40 歳以上に多い
- ⑥ “中経絡”と“中臓腑”の区別

中経絡	{	中 絡 - 麻痺、口眼歪斜
		中 経 - 半身不随、共同症
中臓腑	{	中 腑 - 神志半昏迷、共同症
		中 臓 - 神志昏迷、共同症

\* 中臓腑の表現で閉証或いは脱証を呈する。

{	閉 証：神志昏迷、牙関緊閉、口を開かない、肢体硬直、両手を強く握る				
	<table style="border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">[</td> <td style="padding-left: 5px;">陽 閉：痰 熱 —— 痰熱症状を伴う</td> </tr> <tr> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">]</td> <td style="padding-left: 5px;">陰 閉：痰 湿 —— 寒湿症状を伴う</td> </tr> </table>	[	陽 閉：痰 熱 —— 痰熱症状を伴う	]	陰 閉：痰 湿 —— 寒湿症状を伴う
[	陽 閉：痰 熱 —— 痰熱症状を伴う				
]	陰 閉：痰 湿 —— 寒湿症状を伴う				
	脱 証：昏迷、口乾、二便失禁、手は力なく開いている				

## 【 治療原則 】

急性発病期：治 標 ； 降泄風陽痰火、調理気血逆乱

緩 解 期：治 本 ； 滋養肝腎、補益気血

## 【 症状と処方例 】

## 1. 中経絡

[症 状] 病情が比較的軽く穏か、半身不随、麻痺、口眼歪斜、舌強、言語障害、神志は

はっきりしている、よく愁いよく怒る、舌苔黄膩、脈弦或いは緩滑。

## ① 半身不随

[治 法] [ 疏通経絡、調和気血 ]

陽は動を主り、運動障害は陽の病になる。故に、三陽経が治療  
経絡となる。中でも陽明経は多気多血の経であり、陽明経の気  
血が通暢すれば正気は旺盛となり、運動機能も正常に回復する。

手足の陽明経穴を主とし、太陽・少陽経穴を補助として用いる。

急性期には患側の経穴に瀉法を施し、緩解期には両側の経穴に補法を施す。

## [処方例]

	経 絡	意 義	取 穴 部 位
肩 髃	大腸経	疏通経絡 調和気血	肩関節の前方、肩峰と上腕骨頭の間
曲 池	大腸経		肘窩横紋の外方で、上腕骨外側上顆の前
合 谷	大腸経		第1・2中手骨底間の下、陥凹部。第2中手骨より
外 関	三焦経		陽池穴の上2寸、総指伸筋腱と小指伸筋腱の間
環 跳	胆 経		側臥し、股関節を深く屈し、股関節横紋の外端、大転子前上方陥凹部
陽陵泉	胆 経		膝をたて腓骨頭の前下際
足三里	胃 経		外膝眼穴の下3寸
解 谿	胃 経		足関節前面中央、前脛骨筋腱の外側陥凹部
崑 崙	膀胱経		外果とアキレス腱の間、陥凹部

## ② 口眼歪斜

[治法] [ 疏通経絡、調和気血 ]

手足の陽明・太陽経穴を用いる。急性期には患側、緩解期には両側の経穴を用いる。

## [処方例]

	経 絡	意 義	取 穴 部 位
地 倉	胃 経	疏通経絡 調和気血	口角の外4分
頬 車	胃 経		耳垂下端と下顎角の間、陥凹部
合 谷	大腸経		第1・2中手骨底間の下、陥凹部。第2中手骨より
内 庭	胃 経		足背にあり、第2中足指節関節の前、外側陥凹部
承 泣	胃 経		瞳孔の下7分
陽 白	胆 経		眉毛中央の上1寸
攢 竹	膀胱経		眉毛の内端陥凹部
崑 崙	膀胱経		外果とアキレス腱の間、陥凹部
養 老	小腸経		陽谷穴の上1寸、尺骨茎状突起と尺骨頭の間、陥凹部

## 2. 中臓腑

[症 状] 病情は急で重い、突然倒れ、神志昏迷、半身不随となる。口が歪斜し涎が流れる、舌強失語。

## ① 閉 証

[治 法] [ 啓閉開竅 ]

督脈穴・十二井穴を主とし、手足厥陰・陽明経穴を補助として用いる。

毫鍼による瀉法と三稜鍼による井穴点刺放血を施す。

[処方例]

	経 絡	意 義	取 穴 部 位
人 中	督 脈	啓閉開竅	人中の中央
十二井穴	十二経		* * * * * * * * *
太 衝	肝 経	清肝降逆	足背にあり、第1・2中足骨底間の前、陥凹部
勞 宮	心包経	降心火安神	指を屈し、中指と薬指の先端が当たる分の中央
豊 隆	胃 経	祛 痰	外果の上8寸、条口穴の外方に一筋隔てた陥凹部

## ② 脱 証

[治 法] [ 回陽固脱 ]

任脈経穴に大艾炷を施す（多壯灸）。

[処方例]

	経 絡	意 義	取 穴 部 位
関 元	任 脈	回陽固脱	前正中線上で臍下3寸
神闕（隔塩灸）	任 脈		臍の中央